

狼煙リレーが 特急に勝った

文化調査会

諏訪地方から山梨 8分早く届く

戦国武将の武田信玄が通信手段として用いたのろしを再現する「信玄公祭り 狼煙リレー」は28日、諏訪地方から山梨県内に引き継ぐ形で行った。信玄らが本拠地とした躰躰ヶ崎館跡（武田神社・甲府市）までの伝達速度をJR中央東線の特急あずさと競う新企画も実施。のろしの方が電車よりも8分早く居館に届いた。

（平林梨沙、日比野真由美）



大急ぎで着火し、のろしを上げる有賀城跡保存会の役員＝諏訪市豊田の有賀城跡

地元の城跡・城址保存会や住民有志らでつくる「狼煙文化調査会」の主催。甲府で開かれている「信玄公祭り」（27、28日）に合わせて企画した。午前11時29分に点火する下諏訪町の桜ヶ城跡を起点に諏訪市、茅野市、富士見町内の諏訪地方全9カ所でのろしを上げた。

JR上諏訪駅前で開かれたセレモニーで、甲斐市の保坂武市長は「長い歴史と近代の恵みとの勝負。このような準備をしていたいただきありがとうございます」と感謝。金子ゆかり市長は「面白い、魅力的な企画は大歓迎。それぞれの勝負に携わる皆さん、負けないように頑張ってください」と激励した。



武田信玄に扮した人が足軽の衣装を着た伝令役の3人に書状を渡した「信玄公祭り 狼煙リレー」のセレモニー＝JR上諏訪駅前

足軽の衣装を着た伝令役の3人は書状を受けると、午前11時33分発の上り特急あずさに乗車。同駅近くの高嶋城跡（茶臼山）での点火は特急の出発と同時にいい、武田氏の居館までどちらが早く知らせを届けられるかを競った。甲府駅に着すると、居館までの2・3分は自転車で行った。狼煙リレーで、諏訪市豊田の有賀城跡では同城跡保存会の役員8人がたきつけの枝、ヒノキの青葉などを

1分近く積み上げて待機。スタートから約2分後、対面の山腹に煙が上がるのを確認すると大急ぎで火をつけ、次の中継地（桑原城址）を見守った。東方の山腹や山頂に次々と煙が立つと、役員たちは「うまくいった。無事に責任を果たせた」（宮下信市会長）と胸をなで下ろし、戦国時代の苦労と工夫に思いをはせていた。

狼煙文化調査会の秋山大代表「諏訪市」は「それぞれの頑張りのおかげで、のろしの文化に触れてもらえたのは。さらに諏訪の皆さんの人に広めていきたい」と話した。